

令和元年6月4日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02059

研究課題名(和文)「甲子園」女子応援団のジェンダー史的研究

研究課題名(英文) Research on cheer leaders in Japanese high school baseball tournament

研究代表者

池川 玲子 (Ikegawa, Reiko)

大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：50751012

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：高校硬式野球部男子の夏の全国大会である甲子園は、国民的なイベントであり、そこには様々なジェンダー的事例が集積している。「甲子園」においてさまざまな役割を担ってきた女子生徒に関する歴史をジェンダー視点から研究した。具体的には、時代や地域ごとの事例収集を行い、女子応援団員、女子マネージャー、セレモニー要員(開会式のプラカード・ガールやコーラス・ガールなど)の生成発展の様相を明らかにした。さらに、各事例についての検討を行い、戦後の中等教育現場で駆動してきた、女子を周縁化するメカニズムの一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、「甲子園」大会の歴史を通じて、若年層でジェンダー秩序が再生産されるメカニズムを明らかにしたことにある。「甲子園」の持つ(1)教育事業としての規範性の強さ(2)メディア・イベントとしての巨大さ(3)創設以来100年余りという期間の長さという性格ゆえに、本研究の成果は単なるケース・スタディに留まらず、そのメカニズムを無効化するための具体的な方策へと発展していく可能性を秘めている。

研究成果の概要(英文)：Koshien", a national baseball tournament for high school boys, is a national event. Various gender cases are accumulated there. I studied the history of girls who have played various roles in "Koshien" from a gender perspective. Specifically, I collected case studies by age and region, and clarified the development of female cheering members, female managers, ceremony personnel (such as placard girls and chorus girls at the opening ceremony). In addition, I examined each case and clarified one part of the mechanism for peripheralizing girls that has been driven in the post-war secondary education.

研究分野：日本近現代女性史

キーワード：ジェンダー スポーツ 女子教育 芸能 スポーツ チアリーディング バトントワリング 甲子園

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

ジェンダー研究は、男女を「戦う性/それを支える性」として階層化し、さらに女を「母性/エロティックな性」とに分断することによって維持される近代国家の統治システムを明らかにしてきた。春夏に甲子園球場で行われる高校硬式野球部全国大会(以下「甲子園」)は、このシステムのより本質的な解明のために有益な視座を提供する。

まず、戦いの中心に男子を据え、戦いの周辺に、男子を母性的にケアする女子とエロティックな服装と身振りでチアする女子を別個に配置し、戦う女子を外部に排除する「甲子園」は、まさに上記のジェンダー・システムの縮図である。さらに、創設から100年女子応援団登場から70年という「甲子園」史の長さは、高等学校という均質集団を通史的に観察することを可能にする。加えて「甲子園」は、通常の高中生スポーツ大会のスケールを超えた巨大メディア・イベントであり、かつ映画や漫画などのサブカルチャー領域における一大ジャンルを形成しているため、ここで醸成された価値観は、社会に大きな影響を及ぼしている。ゆえに「甲子園」研究は、単なるケース・スタディに留まらず、当該社会における普遍的な価値観の検討に直結する。

## 2. 研究の目的

男子のスポーツ大会の中で醸成されてきた女子役割の検討を通じて、日本近現代におけるジェンダー統治システムのメカニズムの解明を目指す。

## 3. 研究の方法

まず、母性的なケア役割を担う女子マネージャー、身体的な魅力で応援を担う女子チアリーダー、「甲子園」大会のセレモニーで様々なポジションに登用されてきた女子学生たち、戦前の女学校で行われてきた野球活動に関する、各時代各地域の個別具体例を収集した。主に、関係機関所蔵の一次資料の調査、各地域中核図書館所蔵の地方紙、関係者の聞き取り調査、大衆雑誌等の文献調査、映像視聴等を用いた。

さらに、集積した具体例について、同時代の社会政治状況と照合しつつ、ジェンダー視点からの検討を加えた。

## 4. 研究成果

本研究は、各事例の検討を通じて、「甲子園」という、中等教育事業にして国民的メディア・イベントの内部で駆動してきた、男子を中心化し女子を周縁化するジェンダーのメカニズムを明らかにした。

そこには、明治以来の「良妻賢母」的な女子教育理念、芸能界とメディアが仕掛けた若年女子の「性の商品化」、さらには戦後の共学化によって新たな男女関係に置かれた女子たちが選択してきた生存戦略が重層的に絡み合っていた。また本研究では、さらにそのメカニズムが、帝国主義的戦争体制、占領軍主導による民主主義教育、学生運動への教育関係者たちの警戒、少子高齢化にともなう女性活用政策といった政治社会状況と密接な関わりをもって生成発展してきた経緯を確認した。加えて、女子生徒自身が、「母性」や「エロティシズム」等のジェンダー化された「特性」を武器に、「甲子園」の固定的ジェンダーを内破しつつある現状についても分析を加えた。

現在、研究成果をもとにした書籍を準備中である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 6 件)

・「謎の胎盤人形 見世物と医学のはざま」, イメージ&ジェンダー研究会ミニ・シンポジウム「孕む身体表象 その身体は誰のものなのか?」, 2016年9月

・「明滅する『青鞥』 占領下映像の中の「日本女性史」, ジェンダー史学会第13回年次大会シンポジウム「日米関係の中の「戦後民主主義」再考 ジェンダー表象からのアプローチ」, 2016年12月

・“ Pretty Women in Uniform during the Wartime and Occupation Eras ”, The 2017 WELL Conference and Retreat ” Women Resisting Violence ”, 2017年2月

・「日本の女性映画人の『満洲映画協会』体験」, 2017 international Conference on Women's History Women's Migration and Its Culture in East Asian History: Border-Crossing Women, Fluid Identities, 2017年12月

・“ Pretty Women in Uniform in Japanese Cinema during the Wartime and Occupation Eras ”, IFRWH conference18, 2018年8月

・「高校野球と女子-禁制と解禁をめぐる百年史」, 総合女性史学会 2018年度大会「ケガレ観の歴史的形成とジェンダー」, 2019年3月24日

〔図書〕(計 2 件)

・池川玲子「女優原節子の住んだ家」今関敏子編『家の文化学』青簡舎、2018年、全360頁、pp183-211

・池川玲子「胎盤人形 見世物と医学と美術のはざま」, 山崎明子/藤木直実編著『<妊婦>アート論 孕む身体を奪取する』青弓社、2018年、全152頁、pp102 - 117

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。